

B-6 織物のバイアス方向の性能に関する研究 (第2報)

—バイアス地の伸長時の変形について—

文化女大家政 小川 安朗
○成瀬 信子
高木 洋子

1. 前報において、座屈を生じないバイアス地の引張り強伸度試験に適当な試験片の形を見出した。今回はその試験片を用いて、バイアス地の伸長時の変形について調べる。

2. 試料は、基礎実験として平織綿布を用い、たて方向を中心に、左、右のバイアス地を切りとり、試長部分に、たて糸、よこ糸の方向にそった等間隔のしるしをつけ、引張り強伸度試験の過程において、その間隔の変化を測定した。他方、織物を構成している糸を取り出し、左傾、右傾の状態で行なう引張り強伸度試験を行ない、この時の特性と、糸の織り方向と、バイアス地の伸長時の変形に検討を与えた。

3. 糸密度はほぼ等しいが、たて糸と、よこ糸の特性が異なる平織綿布で、左、右バイアスの変形を比較すると、糸だけで傾斜をさせた時の引張り強伸度特性と、バイアス地の引張り強伸度の織り糸方向による変形とが一致することが認められた。同一の糸を右傾、左傾で行なう引張り強伸度試験を行なった特性は異なるので、左バイアス、右バイアスの変形が対称的でないことが確認された。